

# H27年度精度管理報告会 細胞検査部門

精度管理部員

公立西知多総合病院

吉本尚子

# 調査概要

**参加施設**（133施設）

細胞部門参加施設：55施設

## 実施項目

評価対象設問

フォトサーベイ：10設問

評価対象外設問

パニコロウ染色サーベイ

# 評価方法

設問1～10の判定・推定病変について、正解および許容正解を設定し評価

## 評価基準

評価A	正解	「基準」を満たし 極めて優れている
評価B	許容正解	「基準」を満たしているが 改善の余地あり
評価C	不正解	「基準」を満たしておらず 改善が必要
評価D	不正解	「基準」から極めて大きく逸脱し 早急な改善が必要

# 出題設問 (評価対象設問)

設問			正解および許容正解
設問 1	30歳代、女性 子宮腔部擦過	判定	Adenocarcinoma
		推定病変	子宮頸部腺癌
設問 2	60歳代、女性 子宮腔部擦過	判定	評価対象外
		推定病変	評価対象外
設問 3	50歳代、女性 子宮内膜擦過	判定	陽性(疑陽性)
		推定病変	類内膜腺癌
設問 4	40歳代、男性 気管支肺胞洗淨液	判定	陰性
		推定病変	ニューモシス(・イロベチ)肺炎
設問 5	60歳代、男性 自然尿	判定	陰性、良性細胞
		推定病変	良性尿路上皮

# 出題設問 (評価対象設問)

設問			正解および許容正解
設問 6	40歳代、男性 自然尿	判定	悪性
		推定病変	小細胞癌
設問 7	40歳代、女性 乳腺穿刺吸引	判定	悪性
		推定病変	粘液癌
設問 8	50歳代、男性 胸水	判定	陽性
		推定病変	悪性中皮腫
設問 9	70歳代、女性 口腔底腫瘍穿刺吸引	判定	陽性(疑陽性)
		推定病変	腺様嚢胞癌
設問 10	70歳代、男性 鼠径部リンパ節捺印	判定	陽性
		推定病変	非ホジキンリンパ腫

# 各設問の正解率

	症例1	症例2	症例3	症例4	症例5
判定	100%	評価対象外	96.4%	100%	98.2%
推定病変	100%	評価対象外	96.4%	98.2%	98.2%
	症例6	症例7	症例8	症例9	症例10
判定	100%	100%	100%	92.7%	100%
推定病変	100%	100%	96.4%	89.1%	100%

各設問における正解率は、症例2を除き、概ね良好であった

# 設問2

【年齢】 60歳代

【性別】 女性

【検体】 子宮腔部擦過

【採取器具】 ブラシ

【臨床所見】 子宮頸部術後 放射線治療後

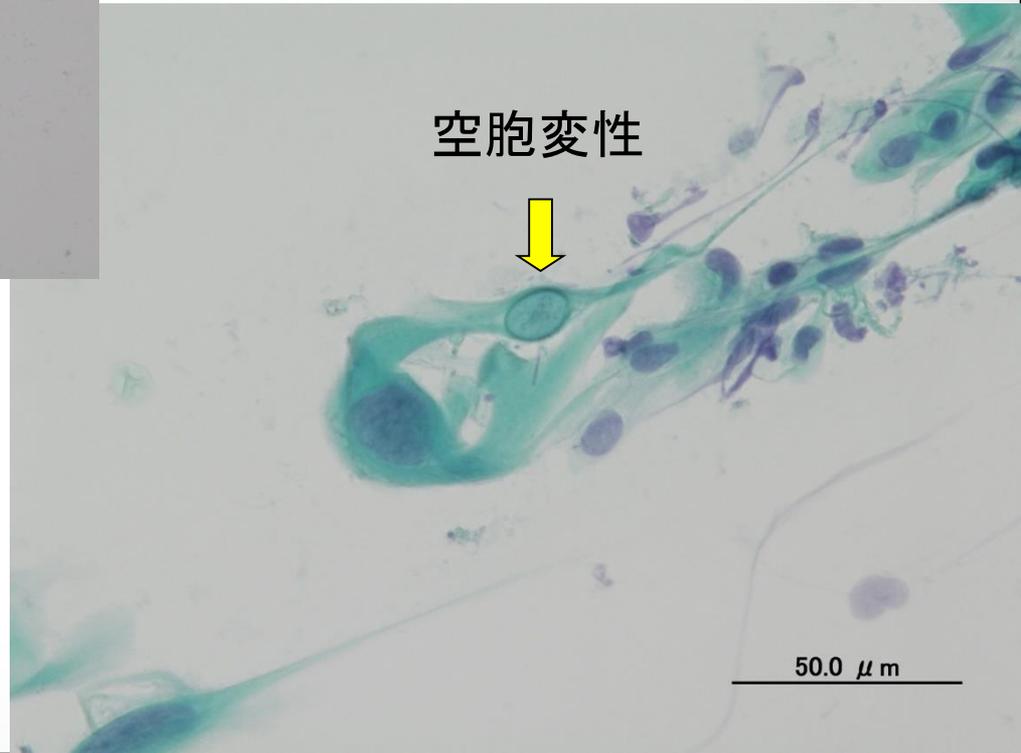
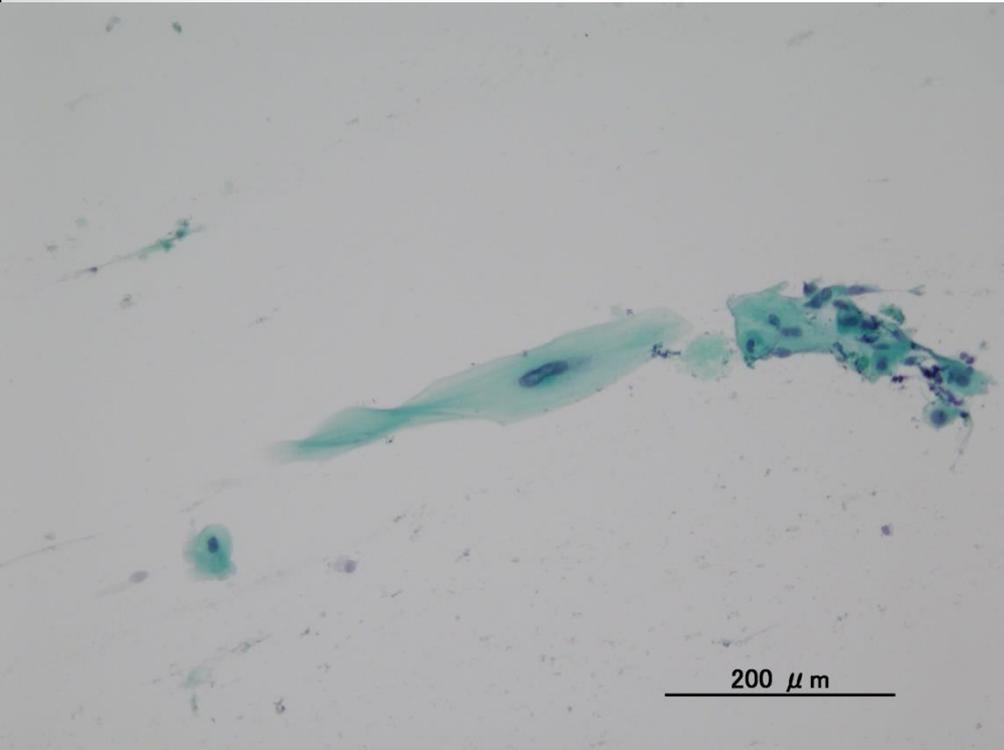
## 設問1-1 判定

- a.NILM      b.ASC-US      c.ASC-H      d.LSIL      e.HSIL      f.SCC  
g.AGC-NOS      h.AGC-Favor Neoplastic      i.AIS  
j.Adenocarcinoma      k.Other

## 設問1-2 推定病変(推定される組織像)

- a.扁平上皮化生細胞      b.再生上皮      c.放射線異形成  
d.扁平上皮癌      e.肉腫

# 設問2



# 設問2 回答一覽

設問2-1 判定		
	回答施設数	回答率(%)
(a) NILM	34	61.8
(b) ASC-US	16	29.1
(c) ASC-H	1	1.8
(d) LSIL	4	7.3
設問2-2 推定病変		
	回答施設数	回答率(%)
(a)扁平上皮化生	4	7.3
(b)再生上皮	4	7.3
(c)放射線異形成	47	85.4

# 評価対象外設問

## パパニコロウ染色サーベイ

### 【対象】

細胞部門参加施設：55施設

### 【方法】

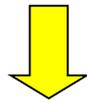
喀痰を塗抹し95%アルコール固定後、迅速コーティング剤を塗布した未染色標本を送付し、各施設でパパニコロウ染色後、標本を回収した。

同時に、染色行程についてのアンケート調査を実施し、それらについて解析した。

# アンケート調査結果

- 染色液は、各施設で、比較的同一メーカー、同一商品を使用しており、染色時間にも大きな差がなかった。
- 染色後の分別・脱水時間には多少のばらつきがみられた。
- アンモニアやリンタンゲステン酸の使用に差がみられた。
- 染色液の使用頻度と交換時期に差がみられた。

実際の標本をみると、染色性に施設間差があった。



染色液が多くの施設で同じであるのに施設間差が生じる原因は、染色・分別の時間、方法、染色液の使用頻度と交換時期、槽数(分別過少・過剰)などの様々な条件が絡み合っ生ずる。

# 総括

- 各設問の正解率は概ね良好であった。
- 設問2は、選択肢で、判定と推定病変の整合性がなかったため回答の混乱を招いたことから、評価対象外とした。
- パパニコロウ染色サーベイでは施設間差がみられた。自施設の染色性と問題点を把握し、それを基に染色をコントロールして、より質の高い標本を作製することが重要と思われる。